

登別温泉ふれあいセンターなどを見学

～ 市民見学会・三市合同施設見学会～

10月3日(金)と4日(土)の2日間、『市民見学会』が行われました。この市民見学会は、市民のみなさんにもっとまちづくりの様子を知ってもらい、市政への理解を深めてもらおうと、市が毎年、春と秋に開いているもので、今回の秋の見学会には市民15人が参加しました。見学施設は、8月にオープンした登別温泉ふれあいセンターやふおれすと鉱山などのほか、新市民プールや新火葬場の建設現場も見学。各施設では、担当者から詳しい説明を受け、「こんなに素晴らしい施設が身近にあるとは」といった声に参加者から聞かれ、改めてまちの発展に目を細めていました。また、9月25日(木)には、登別市・室蘭市・伊達市の三市の市民が参加した『三市合同施設見学会』が行われ、登別市から参加した市民13人は、伊達市の黎明観であい染めの体験や室蘭市の西胆振地域廃棄物処理施設『メトルタワー 21』を見学しました。



登別温泉ふれあいセンターを見学する参加者（市民見学会）



あい染め体験を楽しむ参加者（三市合同施設見学会）

『鬼』の紙芝居が全国から寄せられました

～ 第3回鬼の童話紙芝居コンテスト～



9月29日(月)、『第3回鬼の童話紙芝居コンテスト』の結果と受賞者の発表が行われました。

このコンテストは、昨年行われた『第3回鬼の童話コンテスト』の受賞4作品（『鬼の角』『鬼の駅員さん』『かみなりおにとヘソのゴマ』『登別の鬼のはなし』）の中から1点を題材に紙芝居の作品をつくってもらうもので、道内をはじめ全国各地から43点の作品が寄せられ、最優秀賞1作品や優秀賞3作品、佳作10作品が選考されました。

最優秀賞には、『登別の鬼のはなし』を題材に、色使いや独創性、構成力などが高く評価された愛知県豊川市のイラストレーター・小林香菜さんの作品が選ばれました。

紙芝居作品の募集は今回が最後となりますが、最優秀賞と優秀賞の作品は、今年度に製作される童話集の挿絵に使われるとともに、11月中旬より市のホームページでも紹介されます。



最優秀賞を受賞した小林香菜さんの作品

谷川俊太郎さん・賢作さんに歌をプレゼント

～ 『谷川俊太郎&賢作～詩とピアノの競演～』～

10月3日(金)、市民会館で室蘭市・伊達市・登別市三市合同文化事業『谷川俊太郎&賢作～詩とピアノの競演～』が開かれました。

谷川俊太郎さんは、昭和27年に詩集『二十億光年の孤独』でデビュー以来、親しみやすい新鮮な詩で現代を代表する詩人。谷川賢作さんは、俊太郎さんの長男で舞台音楽や映画音楽の作・編曲を手がけて日本アカデミー賞優秀音楽賞を受賞するなど、高い評価を得ているピアニストです。

親子の軽快なトークで幕が開き、谷川俊太郎さんが北海道への思いを込めて、自作の詩『地平線』を朗読。これを受けて、緑陽中学校の生徒72人が、谷川俊太郎さん作詞の『春に』を清らかな歌声で合唱して、二人を歓迎しました。

来場した約550人の三市の市民は、賢作さんのピアノの調べにのせて朗読される、『生きる』や『朝のリレー』などの美しい詩に熱心に聴き入っていました。



緑陽中学校の生徒との会話を楽しむ谷川俊太郎さん(右)と賢作さん(左)